

作り手の思い
売り手の声

高まる「風評」への不安 川根茶の作り手・売り手は今、何を思う—

県が「荒茶と製茶」について調査すると発表し、志太榛原周辺の茶産地で調査を実施した7日
その翌日、町内の川根茶農家、販売店などを訪ね、関係者の生の声を聞いた
安全が確認された今、風評に負けないためには「一人一人の誠実な対応」が必要だと感じた

長年培った信頼関係が今、生きています

お客さんから届く心配の声

澤本園では近隣の製茶組合や個人農家のお茶による生粋の川根茶を扱っています。今回の放射能事故の影響は目に見えて感じます。昨年は凍霜被害で打撃を受けていたから、今年はきつと上向くだろうと、震災前は期待をして新茶時期を待っていたんです。そんな中で起きた今

回の事故。5月上・中旬の時点で、県が生葉と飲用茶について検査をしましたから安心していましたが、荒茶や製茶についても「絶対に大丈夫」と確信を持っていました。

しかし、やはりお客さんはずごく心配しているようです。電話やファクス、ホームページなどから毎日問い合わせが入ります。「飲んででも本当に大丈夫なの？」といった風評

が、かなり広がっていることを感じています。

皆さんの「信頼」がありがたい

でも川根はまだ良い方かもしれません。先日、他産地のお茶屋さんとお話をしたんですが、その人はお客さんから、「静岡のお茶は怖くて飲めない。今飲んでいるのも返したい」と言われ返品されたそうです。そういったケースがた

くさんあると言っていました。うちは幸いなことに、多少のキャンセルはあるものの、皆さん川根茶を信頼して買ってくださいます。長年培ってきたお客さんとの信頼関係が、今、生きています。

安全が証明された今、私たちは自信を持って「川根茶は安全です」と言い続けることができます。でも、こんな時期であっても「川根茶が飲みたい」と買ってください。お客さんがいるのは本当にありがたいことなんです。そういった信頼関係を、これからも大事にしていきたいと思っています。

万が一の事態は正直怖かった

県の調査結果を聞いて、まずはひと安心、「良かった」というのが正直な気持ちです。既に知事が安全宣言をしていましたから、たとえ荒茶で検査しても大丈夫だと思っていました。しかし「万が一」の事態が起こった場合には、何百、何千という数の返品が発生する可能性もあり、心配していたのも事実です。

影響はこれから出る可能性がある

今のところ、一番茶に大きな影響は出ていませんが、これからお中元やお歳暮など、贈答の季節を迎えると、その影響が顕著になるかもしれません。でも「出荷停止」などの事態にならなければ、何と

か一年間持ちこたえられるかなという見通しです。

規制値、規制値と連日のように報道されていますが、まるで茶農家たちが悪者になったかのような報道には疑問を持ちます。出荷停止になった茶産地の人たちは、どれほど苦しい思いをしているか。良い茶を作ろうと頑張ってきた茶農家が気の毒でなりません。数値だけが一人歩きしているような気もするんです。だから

余計と心配する人が増えてくるんじゃないかと思っています。お茶という飲み物は、一度気に入ってくれたら、一生買いつけてくれるものなんです。川根茶を気に入ってくれた人は、ずっとひいきにしてください。こんなにありがたいことはないですよ。そうやって信頼して買ってください。お客さんのためにも、きちんと安全性を説明していきたいと思っています。

きちんと誠実に茶の安全性を説明したい

問い合わせは毎日のように入ってきます。そういったお客さんの声には「うちの町でとれたお茶ですから安心して飲んでください」と説明するんですが、中には、毎年新茶を買ってくれていたお客さんが、「今年だけは去年のお茶を送って欲しい」と言われることもありました。孫に飲ませるのは心配だから今年はやめておくといい人もいました。

私たちとしては、本当は香り豊かな新茶を味わって欲しいのですが、実際に飲むのはお客さんですからね。テレビなどを見て、心配する気持ちも分かるんです。

でも、そんなの全然気にしないで、いつも通り買っていく

売り手の声

株澤本園（田代）
飯野潤子さん

売り手の声

坂本園（上岸）
坂本政己さん